

## 中学校 美術科 部会

部会長名 糸田中学校 校長 村上きぬよ

実践者名 添田中学校 教諭 其上 利幸

### 1 研究主題

豊かな情操を養う美術科学習指導案の研究

～郷土の伝統・文化との関連を図る授業展開の工夫～

### 2 主題設定の理由

#### (1) はじめに

中学校学習指導要領の総則においては、生徒に「生きる力」をはぐくむことを目指すと示されており、現在各学校ではさまざまな取組が進められている。

しかし、日々の各メディア報道から垣間見える現代の若者の姿は、ともすれば排他的で思いやりに欠ける側面が感じられる。また、携帯情報ツールの発達に伴う直接体験ではない受け身的で表面的な体験の増加は、自らの力で何かを生み出そうとする原動力やその元となる感性の減退につながるのではないかと危惧される。そうした現状からは、これからの「生きる力」をはぐくむ取組のさらなる深化が求められていると言えるだろう。

#### (2) 美術科教育の現状から

美術科の表現及び鑑賞の幅広い活動を通して養う能力・心情として

①創造活動の喜びを味わい愛好する心情を育てる

②感性を豊かにする

③美術の基礎的な能力を伸ばす

④美術文化についての理解を深める

⑤豊かな情操を養う

の5つがあげられている。それは、相互に関連しあいながら高まり、定着していくものであると思われるが、そのベースになるものとして、「主体的に学習に取り組む態度」が重要であると考えられる。

年間35時間（第1学年は45時間）という少ない授業時数ということもあり、扱う題材の数は必然的に限られてくる。また、制作する作品のサイズは以前より小さいものにせざるをえない。そんな状況の中で、主体的な学びを引き出し、前述の目標を達成するためには、授業展開の工夫が必要不可欠である。

短時間で効率よく基礎的な能力を身につけさせることができ、なおかつ生徒の興味・関心を引き付ける魅力的な題材を用意できるか。また、生徒への提示の仕方で斬新なアイデアが出せるか。さらに生徒の実態から考えると、直接的な生活体験の不足による発想力の低下や技能上のつまづきからくる意欲の減少を防ぐために、どんな手立てを構築すべきか。これからの美術科教師に求められているものは多い。

### 3 主題の意味

#### (1) 「豊かな情操を養う」について

情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情操豊かな心のことである。それは、知性・感性・徳性などの調和の上に成り立ち、豊かな精神や人間としての在り方・生き方に強く影響していくものである。それは、非常に高次な心の動きであり、美術科の目標の中で最後に表記されていることにも意味があると言えるだろう。

美術の表現や鑑賞の活動は、創造的な体験の中で感性を豊かにし、美術の基礎的な能

力を伸ばし、美意識を高め、自己の世界として意味付けをし、自らの夢や可能性の世界を広げていくことから、豊かな情操を養うのに適しているとされる。心を生き生きと働かせながら、よりよいものや美しいものをつくりだし感じ取る喜びを、主体的な表現・鑑賞活動の中で生徒に実感させることにより、美しいものや優れたものを大切なものとして生徒の心に強く印象づけることができるようになると思う。

(2) 「郷土の伝統・文化との関連を図る授業展開の工夫」について

生徒の主体的な学びをひき出すための方策として、郷土の伝統・文化を授業に取り入れることに着目した。

地域のお祭りに目を輝かせ参加する生徒の姿からは、それと意識していなくても、郷土を愛する心が息づいていると思われる。また、本地域には歴史的にも文化的にも価値があるとされる郷土の伝統・文化が残されており、さらに、素材としても、技能としても優れたものが多くみられる。それらを再発見し、美術の授業において価値づけることで、生徒にとっては非常に魅力的な題材になっていくと考える。

そして、今回の学習指導要領の改訂により新たに加わった内容として、「美術文化についての理解を深める」というものがあり、解説にも次のように表記されている。「これからの国際社会で活躍する日本人を育成するためには、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承・発展させるための教育や異なる文化や歴史に敬意を払い、人々の共存してよりよい社会を形成していこうとするための教育を充実する必要がある。」「美術においては、古くからの美術作品や生活の中のさまざまな用具や造形などが具体的な形として残されており、受け継がれてきたものを鑑賞することにより、その国や時代に生きた人々の美意識や創造的な精神などを直接感じ取ることができる。それらを踏まえて現代の美術や文化をとらえることにより、文化の継承と創造の重要性を理解するとともに、美術を通じた国際理解にもつながることになる。」

美術科における郷土の再発見は、生徒の作品制作・鑑賞活動における意欲の向上のみならず、郷土を支える思いの継承につながるだろう。

4 研究の目的（具体的な研究）

表現及び鑑賞の題材設定及び展開にあたって、郷土の伝統・文化をいかに位置づけるかを工夫することにより、生徒の主体的な学習態度をひきだし、思考力・判断力・表現力等も含めた美術の基礎的な能力の向上につなげることを目的とする。

	「 A表現 」	「 B鑑賞 」
題材設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○素材としての活用</li> <li>○技法・技能の直接体験としての活用</li> <li>○関連資料としての活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史・文化・美的価値の追求</li> <li>○異なる歴史・文化との比較</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題把握段階               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品例</li> <li>・ 素材体験</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題把握段階               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考作品</li> </ul> </li> <li>②追求・比較段階               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象作品</li> </ul> </li> </ul>

②発想・構想段階 ・部分資料 ・制作体験 ③制作段階 ・つまずきへの支援資料 ④鑑賞段階 ・自作品との比較	③交流段階 ・分析方法の例示作品 ④まとめ段階 ・ふりかえり用参考作品
---	--

## 5 研究仮説

以前からあった「郷土教材」という考え方を見直し、再発見することが、本地区における美術科教育の課題を解決する鍵であり、表現及び鑑賞の題材設定及び展開にあたって、郷土の伝統・文化を位置づけていく工夫を重ねていけば、生徒の主体的な学習態度をひきだし、思考力・判断力・表現力等も含めた美術の基礎的な能力の向上につながるであろう。

## 6 研究の計画（授業の計画）

- (1) 題材 「郷土にない、新しい天狗の面をつくろう」  
 ～添田町伝統工芸品（天狗陶面）の関連資料としての活用～

### (2) 題材の目標及び指導計画

題 材	「工芸（紙粘土による面の制作）」	総時数	8 時間	時期	二学期
題材の目標	○粘土による立体表現に関心を持ち、意欲的に制作することができる。 （関心・意欲・態度） ○オリジナルな形を発想し、粘土による表現方法を構想することができる。 （発想や構想の能力） ○粘土の特徴や塑造の技能などを理解したうえで、立体的に表現することができる。 （創造的な技能） ○郷土の伝統作品や友達の作品などのよさや美しさを積極的に感じとることができる。 （鑑賞の能力）				
次 時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)		
1 1	・作品から郷土や自然観を感じ取り、制作に関心を持たせる。 ・造形的な美しさを感じ取る力をつける。	・参考作品を鑑賞したり、天狗の言い伝えについて知ること、自分のイメージを見つけ出す。	・郷土の工芸品（天狗の面）を見せ、作り手の思いを創造し、創作意欲を喚起させる。		
2 1	・自分のイメージに近づくようにお面のデザインを発想する。 ・意欲的にアイデアを鉛筆で描く。	・自分のイメージをもとにアイデアスケッチを描きながら天狗のお面の形を考える。	・独自性と強調性を考えながらデザインするように工夫させる。 ・何度も描き直しができるように鉛筆で描かせる。		

3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達作品から良さや美しさを感じ取り、粘土による表現を構想する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチを鑑賞し合うことでお面の発想や立体的な表現の構想について深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人作品やコメントから再度構想を練る。</li> </ul>
4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土による立体表現に関心を持ち、意欲的に制作することができる。</li> <li>・粘土の特徴や塑造の技能などを理解したうえで、立体的に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土の特徴や塑造の技法などの技能を身につけながら、お面の制作を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙粘土の特徴と面芯の使い方に関する注意</li> <li>・ヘラの使い方と粘土の貼り付けを指導する。</li> <li>・凹凸のつけ方で成形させる</li> <li>・完成品を参考にして丁寧な作業をさせる。</li> </ul>
5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルな色を発想し、彩色や模様によって表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構想を練り直しながら、絵の具を使って模様や彩色を施す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塑像作品とアイデアスケッチの色とを比較させながら配色や模様を練り直させる。</li> </ul>
6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達作品から良さや美しさを積極的に味わうことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の作品を鑑賞し合うことで違いを認め合うだけでなく、共感的人間関係を味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を鑑賞しあい違いや良さを出し合わせる</li> <li>・制作を振り返らせながら感想をまとめさせる。</li> </ul>

## 7 指導の実際

### (1) 主 眼

○自他のアイデアスケッチをもとに、鑑賞し合うことで、自分の発想や構想をより深めることができる。

### (2) 本時の仮設

以下のような手立てをとれば、主眼を達成させることができるであろう。

- ・自分の表現しようとするイメージを、立体的に考えてワークシートに記述させる。  
(自己決定の場)
- ・班でアイデアやコメントを交流し合うことで、互いの良さや違いを認め合ったり指摘し合ったりすることができる。  
(共感的人間関係を味わえる活動)
- ・仲間の意見やコメントを参考に、描き直しや描き足しをするなどして自分の発想や構想を深めさせる。  
(自己決定の場)

### (3) 準 備

生徒：筆記用具

教師：ワークシート、

(4) 展 開

段階	配時	学 習 活 動	教師の支援・援助 ※主な評価規準
導 入	1 0	1. 本時のめあてを確認する。 (1)前回の作業を振り返る。 (2)めあてを確認する。	・前時までにお面のアイデアスケッチを描いている。そこで3つの視点について再度確認させる。 《強調した形・効果的な色・表情》
めあて お互いにコメントを出し合って、アイデアスケッチを練り直そう。			
展	1 5	2. お互いのアイデアスケッチを見せ合ってワークシートにコメントを書く。 《良い点やアドバイス》	・班内でアイデアスケッチを鑑賞する時間を設け、形や色、表情について良さやアドバイスを書かせる。 ・それぞれの作品について、コメントを記入出来るように指導する。 (共感的人間関係を味わえる場) ・コメントを書けない生徒には机間指導の際にアドバイスを与える。
	1 5	3. 班員のコメントを参考に、付加修正や練り直しを行う。	・班員のコメントや作品を参考に、付加修正や練り直しをすることで自分の発想や構想が深められるように指導する。 (自己決定の場)
まとめ 仲間のアイデアスケッチを見たり、コメントを参考にすることで、自分が考えた形や色をより表現することが出来る。			
ま と め	1 0	4. 次時の予告を聞く。	※班員の作品やコメントを参考にしてアイデアを練り直すことができたか。(ワークシート) ・練り直したアイデアスケッチをもとに、紙粘土を使ってお面を制作することを伝える。

8 研究のまとめ

本題材は表現の題材設定にあたって、郷土の伝説的な存在とした「天狗」を選ぶことによって生徒の興味・関心を高め、アイデアスケッチを使った思考の過程で、生徒の主体的な学習態度をひきだし、思考力・判断力を含めた能力の向上につなげることができた。さらには制作において伝統工芸品の陶面を参考にすることで、塑造による表現力や技能を身に付けさせることができると考えられる。このように表現及び鑑賞の題材設定及び展開にあたって、郷土の伝統・文化を位置づけていくためには、教師自身が生徒の美術の基礎的な能力の向上につながることを認識したうえで、日頃から学校近辺や郷土

の伝統・文化をいかに再発見し、日頃の授業にどのように結びつけていくか工夫することが必要である。

## 9 成果と今後の課題

生徒の主体的な学習態度をひきだし、思考力・判断力・表現力を高めるために、郷土の伝統・文化を授業に取り入れた学習活動を展開した。美術科の学習指導において、題材設定における素材としての活用や関連資料としての活用を通して、生徒自身の思考を働かせ、課題解決や目的達成へと支援する授業づくりに取り組む中で、生徒の学習に対する意欲や態度も高まり、伝統工芸品を参考にしながら、発想や構想を膨らませたり、よりよい作品を完成させようとする姿へと変容が見られた。また、作品完成後の自己評価では、「自分がイメージする天狗のお面を表現することができた。」や「天狗のイメージ作りに郷土の工芸品がとても参考になった。」という感想が多くあげられた。このことから本研究を通して、生徒の主体的な学習態度をひきだし、思考力・判断力・表現力も含めた美術の基礎的な能力の向上のためには、表現の題材設定及び展開にあたって、郷土の伝統・文化を位置づける工夫をすることは大変有効であることが分かった。

本研究は、表現及び鑑賞の題材設定及び展開にあたって、生徒の主体的な学習態度をひきだし、思考力・判断力・表現力を高める学習指導の在り方を追求する予定であったが、現時点では表現の題材設定及び展開の工夫だけとなっている。自己表現だけでなく郷土や地域を支える思いの継承につなげるためには、鑑賞活動において伝承芸能や伝統工芸品を活用すること工夫が今後は必要であると考えられる。